

1 今年度の具体的な取組と自己評価

重点目標	教育活動の具体的な取組と自己評価
<p>(1) 学習指導</p> <p>① 教科担当による授業中の生徒状況「気づきシート」を6月に作成し、一人ひとりの生徒情報を共有し、配慮の必要な生徒に対しては、個別の指導計画を作成し、共通理解のもとに指導する。</p> <p>② 1・2年次で定期的な基礎学力テストを年間20回以上実施する。23年度1年次のみ実施。</p> <p>③ チャレンジ指定科目において、キャリア教育の視点からコミュニケーション能力を高める指導を実施する。16時間以上実施 22年度14時間</p>	<p>① 「気づきシート」により教科指導教員からとくに配慮を必要とする生徒64名分の生徒情報を収集し、教職員全体で情報を共有するとともに、個別の指導計画を49件作成し、全体会で共通理解を図って指導した。</p> <p>② 1・2年次で定期的な基礎学力テストを合わせて年間35回実施し、基礎学力の向上を図った。</p> <p>③ 「産業社会と人間」と「地域理解」「総合研究」を中心にコミュニケーション能力を高めるため、グループエンカウンターを取り入れた授業を16時間実施した。</p>
<p>(2) 生活指導</p> <p>① 冬服着用時のセーターなど服装指導及び授業時・登下校時のマナー指導を徹底する。1月の身だしなみに関する来校者アンケートで肯定的な回答を90%以上とする。肯定的回答 22年度 80% 23年度 91%</p> <p>② 中学校との連携、面談・校内巡回等で生徒の状況を随時的確に把握して迅速に対処するとともに学校組織として一貫性のある対応をする。毎日3回の校内巡回を年間を通して実施する。指導に配慮を要する生徒の情報交換会を実施 全体会3回以上 特別支援教育コーディネーター・養護教諭・学級担任などチームとしての対応会議年間100回以上 22年度97回 23年度95回</p> <p>校内巡回を毎日3回実施する。 生徒への組織的な対応、チーム会議100回以上。</p> <p>③ 特別支援教育体制推進事業重点推進校として関連機関と連携して指導の改善を図る。ケースカンファレンス15回以上</p> <p>④ 毎日の清掃指導の充実を図る。学校見学者の清潔感に関する肯定的回答90%以上</p>	<p>① 身だしなみやあいさつについて、指導方針を全教室に掲示し、生徒会執行部と連携して年間5回の重点指導を徹底した。1月の学校見学者からは、身だしなみは良好との意見が92%だった。</p> <p>② 毎日3回の校内巡回を年間を通して実施した。指導に配慮を要する生徒の情報交換会全体会を4回実施した。特別支援教育コーディネーターと学年相談担当者が中学校訪問するなどして中学校との情報交換を22件行った。 特別支援教育コーディネーター・養護教諭・学級担任などチームとしての対応会議を47回実施した。専任の特別コーディネーター配置による全員面接を実施したこともあり、チーム会議の回数は減少した。</p> <p>③ 特別支援教育コーディネーターを中心となり、個別の支援計画及び指導計画を作成し、ケースカンファレンスは15回実施した。</p> <p>④ 1月の学校見学者の清潔感に関する肯定的回答は95%以上であった。</p>

<p>(3) 進路指導</p> <p>①面談指導を充実させ、自己理解を深め、自己の適性を見極める指導を行う。</p> <p>②生徒の進路実現にむけ適宜、講習、補習、面接指導等を実施する。進路決定率75%以上を目指す。</p>	<p>①面談指導の充実をすすめ、ほとんどの学級で個人面談3回以上保護者面談1回以上を実施した。</p> <p>②進路指導部教員が卒業予定生徒全員面接を実施し、学級担任と連携し個別指導を徹底した。卒業時の進路決定率は78%となった。</p>
<p>(4) 特別活動・部活動</p> <p>①3つの部の生徒が一堂に会する行事を中心に学校行事をより充実させる。体育祭・文化祭への参加率80%以上</p> <p>②地域清掃、町会行事への参加、地域施設訪問など地域への働きかけ10回以上、参加延べ人数100人以上。</p>	<p>①参加率は体育祭79.8%、文化祭82.8%であった。とくに文化祭は、入場者が2年連続で1500名を超え大盛況であった。</p> <p>②地域でのボランティア活動や特別支援学校とのコラボイベントの手伝いや和太鼓演奏など27回、延べ230名以上の生徒が参加した。</p>
<p>(5) 健康づくり</p> <p>①教育相談体制を充実させ、相談体制の整備を図るとともに、情報を共有し組織的な指導により心の健康づくりを図る。週5日間カウンセリングルームに担当者が常駐する体制をつくる。FAの年間生徒対応回数を1000回以上をめざす。</p> <p>②生徒全体への定期的な保健指導を年間5回実施する。</p>	<p>①の健康づくりを充実させるため、スクールカウンセラー(SC)の他に心理学を学ぶ大学院生9名をフレンドシップアドバイザー(FA)として活用し、カウンセリングルームに担当者が常駐する体制を作った。FAの年間生徒対応回数は、751人と目標を下回った。一定の生徒利用があり、心の安定に寄与しているが、利用生徒の拡大を図ることが今後の課題である。</p> <p>②部集会時など保健講話など生徒全体への指導を5回実施した。また、内科、歯科、耳鼻科、眼科の医師による健康相談及び養護教諭による相談を年間5回実施した。</p>
<p>(6) 募集広報活動</p> <p>①中学生・地域・保護者への情報提供を推進する。在校生による出身中学校訪問延べ30校、教員による適応指導教室訪問30校、学校説明会を7回実施し、参加者1300名 本校広報紙を5回以上作成・配布、総務部を中心に退職教職員ボランティアも活用し、550名以上の個別学校訪問へ丁寧に対応する。</p> <p>②ホームページの充実を図る。年間50回以上は内容を更新する。</p>	<p>①学校説明会を7回実施し、参加者は約1300名であった。また、大江戸かわらばん(4回)大江戸ニュース(6回改訂)を発刊し、近隣施設や学校訪問者に配布した。中学生の個別学校訪問は、保護者を含め約500名あり、丁寧に対応した。一次応募倍率は、2.2倍となりチャレンジスクールでは唯一2倍を超え、チャレンジスクールで6年連続最高倍率となった。</p> <p>②ホームページの更新は60回以上行った。</p>
<p>(7) 学校経営・組織体制</p> <p>①職員向けガイダンスを適宜実施する等学校運営のコンセプトの共通理解をさらに深化させ、一体となって生徒の教育にあたる体制を作る。</p> <p>②施設・設備の安全確認のため施設委員による校内巡視を年間3回実施する。</p>	<p>①年度当初から始業式まで、新入・転入教職員を対象とするガイダンスを春季休業中毎日実施した。長期休業日中等に外部の専門家を招いて3回の校内研修を実施するなど、学校運営のコンセプトに基づく指導についての共通理解を図った。</p> <p>②施設・設備の安全確認のため管理職・経営企画室長による校内巡視を合計5回実施した。</p>

※ 自己評価については、生徒による授業評価、学校運営協議会アンケート、学校見学者アンケートなどの結果による。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ① わかりやすい授業を実現するため授業方法の工夫に全校的に取り組む。授業のはじめに4項目程度で授業の流れを視覚的に提示するなど授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
- ② 学力向上開拓推進事業の一環として、基礎学力の現況を的確に把握する体制をつくり、さらなる定着と向上を図る。とくに自発学習へ向けた指導の充実を図る。
- ③ 学習成績の評価について共通理解を図る。

(2) 生活指導

- ① 新入生より規定を明確化し、夏服のベスト、アクセサリーについても明確な指導方針でルールとマナーの指導を徹底する。

(3) 進路指導

- ① 1・2年次からのコミュニケーション能力育成などキャリア教育をさらに充実させる。
- ② 障害のある生徒に対する適切な組織的指導体制をつくる。
- ③ 卒業後の移行支援を見据えての指導に取り組んでいく。

(4) 特別活動・部活動

- ① 生徒会・委員会組織を活性化し、生徒が主体的に行事に関わるよう指導を改善する。
- ② 部活動の加入率を高める。

(5) 健康づくり

- ① 心の健康づくりを充実させるため、スクールカウンセラーや心理学科大学院生の他に、教職員大学院などからも生徒対応できる人材を取り入れる。

(6) 募集活動（地域交流等）

- ① 情報発信の地域を広げ、適応指導教室を中心に不登校と関わる機関との連携を図る。
- ② 学校広報誌「大江戸かわらばん」を年間5回発刊し、情報提供の常態化に努める。
- ③ 携帯サイトの活用を図るなど、ホームページの充実を図る。
- ④ 入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応する。

(7) 学校経営・組織体制

- ① 研修を充実させ、目指す学校像に関する教職員の共通理解を一層高め、一貫した指導をする。
- ② 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。